



緒方貞子物語

難民の命を救った小さな巨人

あ ら す じ

迫害、紛争、暴力、人権侵害などによって故郷を追われた人たちは現在、地球上に1億人以上もいます。そんな人たちのために強いリーダーシップを発揮し、日本人で初めての国連難民高等弁務官として、難民救済にあたったのが緒方貞子です。

幼少期をアメリカで過ごし、「日本もアメリカもどちらも自分の故郷」と感じていた貞子が経験した戦争。終戦後、留学したアメリカで直面した人種差別。平和への強い思いを常に感じていた貞子は、ひょんなことから日本の代表として国連に出席し、貧困層の人々や難民と出会い「私ができる事は何か」を考えます。

湾岸戦争におけるクルド人の救済、バルカン紛争一銃弾の中の人道援助、ルワンダー難民キャンプの治安維持など、危険を顧みず自ら現場に向かい陣頭指揮を執る姿は「小さな巨人」と呼ばれるほどの活躍でした。

「できる事には限りがあるが、できることから始めよう」という不屈の精神は、多くの人の心を動かしました。

DVDをより深く子どもたちが理解し、考える力をつけるために

視聴後に、簡単な声掛けや感想を書く事で、子どもたちの理解はより一層深まり、考える力が身に付きます。

- (1) 貞子の物語を見て、どのシーンが一番心に残ったかな？
- (2) キミから見て、貞子はどんな人だと思う？
- (3) 貞子は、平和がとても大切だと考えました。どうしてそう思ったのでしょうか。
- (4) 難民ってどんな人の事だと思う？
- (5) キミは、将来どんなことをやりたい？
そして、それをやり遂げるためには何が大切だと思う？
- (6) 「私はこんな風に思った」「私はここが面白かった」など、お友達と色々な話をしてみましょう。
また、おうちの人にもDVDで見たことを教えてあげましょう。